



# 今週の T2 経済レポート

2021 年 4 月 2 日号

## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

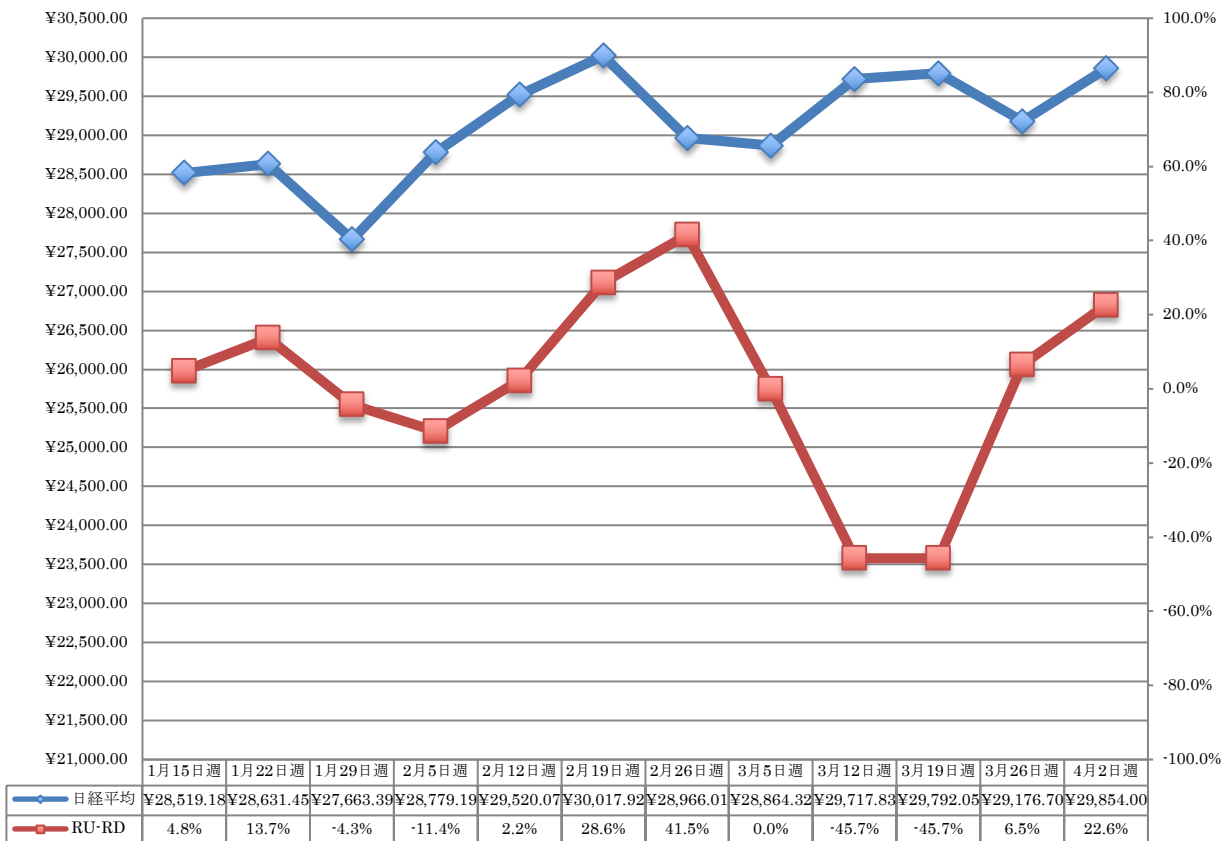
### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場が期待される週となりそうです。今週(3/29~4/2)の相場を占う『RU-RD 指標』の3月19日週が+22.6%と2週連続でプラス圏に浮上したことから堅調相場が期待されます。先週末26日の取引時間終了後、米株高を受けて夜間に日経先物が上昇していることから週初は急反発スタートとなる可能性があります。ただ、来週(4/5~4/9)の相場を占う3月26日週が-34.2%と3週間振りにマイナス圏に陥っていることから急落調整が懸念されます。9日にミニSQを控えていることで投機筋の外国人がどのように動くのかが注目されます。3月1日週、『2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振りです。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。』と指摘したように、相場が天井圏に入っているとスタンスは忘れないことです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%と33週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、30日に2月有効求人倍率、31日に2月鉱工業生産、4月1日に3月日銀短観、一方、海外では、30日に米3月消費者信頼感指数、31日に中国3月製造業PMI、米3月ADP全米雇用リポート、4月1日に中国3月財新製造業PMI、米3月ISM製造業景

気指数、2日に米3月雇用統計などが予定されています。4月1日発表の3月ISM製造業景況指数は60.0と、2月の60.8をやや下回りそうですが、60レベルの高水準を維持する可能性があります。また、4月2日発表の米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数前月比+56.5万人、失業率は6.0%と予想され、失業率は横ばいながら経済活動の段階的な拡大によって非農業部門雇用者数は大幅な増加となる見込みです。」とコメントしました。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



3月12日週	3月19日週	3月26日週	4月2日週
¥29,717.83	¥29,792.05	¥29,176.70	¥29,854.00
-45.7%	-45.7%	6.5%	22.6%

先週の日経平均は、高値 29869 円 (4月2日)・安値 29165 円 (3月31日)と推移、3週間振りに前半安・後半高の強いかたち。先週は、週半ばまでは米投資会社の巨額取引を巡る混乱が突如警戒要素として台頭し様子見ムードも強かったですが、バイデン米大統領の投資計画の詳細が発表され、既定路線だったインフラ関連以外に半導体生産支援などにも大規模な予算が割り当てられたことや 1983 年来で最高を記録した米 3 月 ISM 製造業景況指数も市場心理の改善に寄与、また日銀が発表した 3 月の全国企業短期経済観測調査も市場予想を上回る結果となり上値目標値目

前まで反発、週間ベースで+678 円高と前の週の下落分を取り戻す大幅反発で終了しています(先週予告していた上値メド 29911 円～30509 円(+2%かい離)//下値メド 28909 円～28330 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、4 月 1 日に 29500 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、29000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、3 月 23 日に 29000 円大台割れで下落スタートとなりました。28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、30000 円大台替えで仕切り直しが入ります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、3 月に 29000 円大台割れで下落スタートとなりました。28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、30000 円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期↓、長期↓となり、中長期の弱含みは変わりませんが、短期が強含みで逆方向となりより乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値 33259ドル(3 月 29 日)・安値 32905ドル(3 月 29 日)と推移、同じ日に安値・高値をつけた週でしたが、実質は 2 週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、新型コロナウイルスのワクチン接種が拡大していることやバイデン大統領が 3 月 31 日、国内のインフラの整備に 8 年間で 2 兆ドル超の投資計画を発表、また 4 月 1 日発表の 3 月 ISM 製造業景況指数が 1983 年来で最高を記録し、上値目標値は達成しませんでした。史上最高値を更新、週末 4 月 2 日は聖金曜日の祝日で米国株式市場は休場となりましたが、この日発表された 3 月米雇用統計で非農業部門雇用者数も 91.6 万人の急増、失業率も 6.0%に低下し、週間ベースでは+81ドル高と 2 週連続高となりましたが小幅高で終了しています(先週予告していた上値メド 33465ドル～34134ドル(+2%かい離)//下値メド 32441ドル～31792ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、3 月 14 日(日曜日のため猶予で 15 日)までに 33000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。33500ドル大台替えで仕切り直し、逆に、32000ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、3 月 26 日までに 34000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。35000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、32000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、3 月に 32000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同月 33000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 0 ヶ月、従って、今月中に 34000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。34000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、31000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→、となり、短中長期全てが方向感がなくなりより乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 110.96 円～109.36 円(先週予告していた上値メド 109.77 円～110.86 円(+1%かい離)//下値メド 108.79 円～107.70 円(-1%かい離))と推移、上値目標値を超え 3 週間振りに円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1795～1.1702(先週予告していた上値メド 1.1930～1.2049(+1%かい離)//下値メド 1.1795～1.1677(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し 2 週連続

のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、130.31 円～128.80 円(先週予告していた上値メド 130.05 円～131.35 円(+1%かい離)//下値メド 128.54 円～127.25 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、前の週と異なり円安・ユーロ高。前の週の円>ドル>ユーロからドル>ユーロ>円に変化しましたが、ユーロはドルに対し 2 週連続安となっています。ドイツは英アストラゼネカ製ワクチン使用を 60 歳以上に限定すると発表したことやフランスにおける都市封鎖継続などの影響でユーロ圏経済の早期回復は難しいとの見方が広がる一方、米国のバイデン政権の大規模インフラ投資計画発表や 1983 年来で最高を記録した米 3 月 ISM 製造業景況指数でユーロ売り・米ドル買いが優勢となったことが原因です。

### <裁定買い残・裁定売り残>

2 週連続で大幅増加。3 月 1 日週は 15 年 11 月 16 日週以来の 5000 億円超の増加で 19 年 3 月 25 日週以来の 1 兆 4000 億円台に急増、次週の 3 月 8 日週は 16 年 1 月 4 日週以来の 7000 億円超の減少で残高は 7000 億円台に一気に逆戻り、更に先週発表の 3 月 15 日週は 4600 億円増の 1 兆 1674 億円、今週は約 2700 億円増の 2 週連続大幅増加で 19 年 3 月以来の 1 兆 4300 億円台、とここ 4 週連続で 2700 億円～約 7000 億円の増減。このように 1 週で巨額の増減を繰り返すのは異常ですが、これだけの増減でも相場が乱高下しないのは「ブロック取引」が行われているためかと思われます。つまり、最近話題となっているファンドか、ヘッジファンドの精算に伴う処理が行われている可能性があります。一方、「裁定売り残」は、前の週比-217 億円の 1 兆 1132 億円と前の週と異なり減少。3 月 8 日週の 1000 億円の減少は 2 月 8 日週以来、また残高の 1 兆円台はコロナショック目前の昨年 2 月 24 日週以来で、日経平均が 30 年半振りに 30000 円大台を回復した牽引役の一つとなっています。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

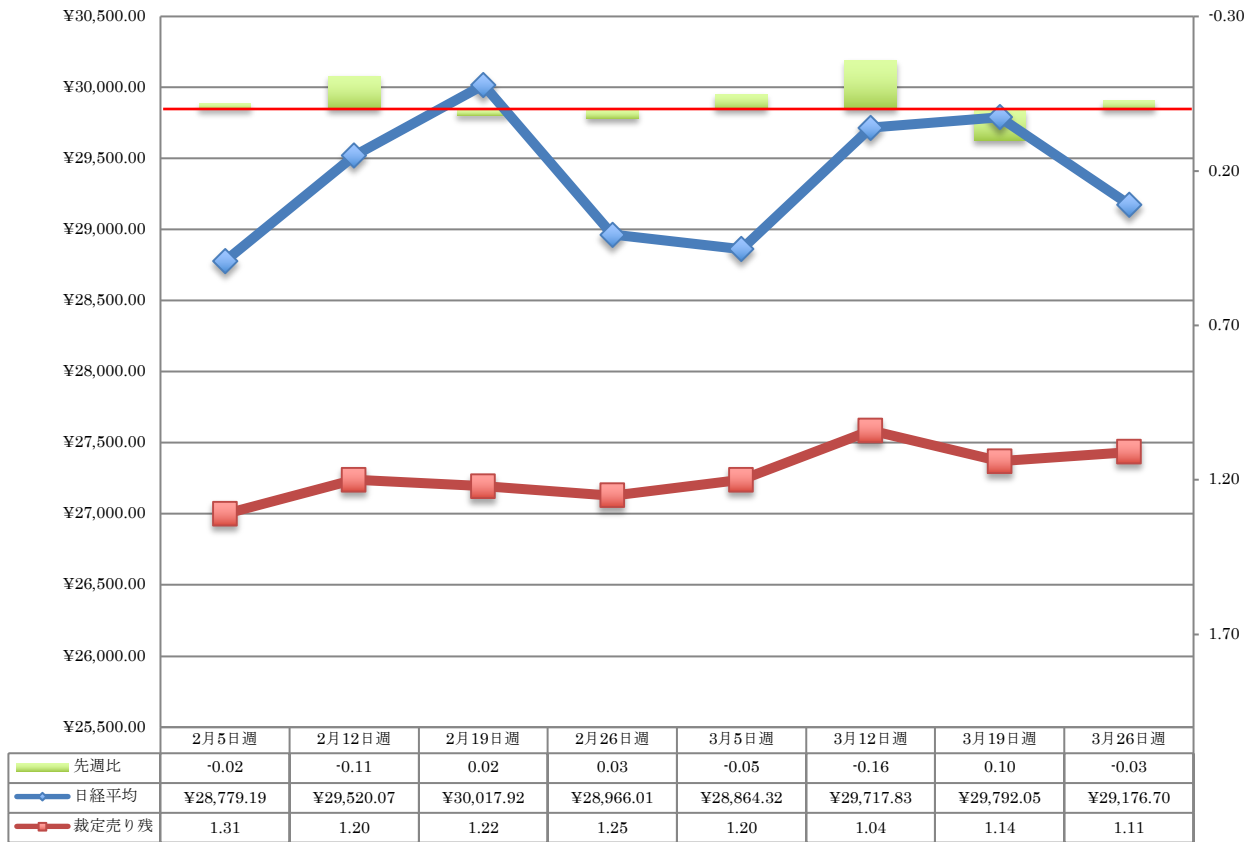
### 裁定買い残と先週比



	3月5日週	3月12日週	3月19日週	3月26日週
日経平均	¥28,864.32	¥29,717.83	¥29,792.05	¥29,176.70
裁定買い残	1.41	0.7	1.16	1.43
先週比	0.57	-0.71	0.46	0.27

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



	3月5日週	3月12日週	3月19日週	3月26日週
日経平均	¥28,864.32	¥29,717.83	¥29,792.05	¥29,176.70
裁定売り残	1.20	1.04	1.14	1.11
先週比	-0.05	-0.16	0.10	-0.03

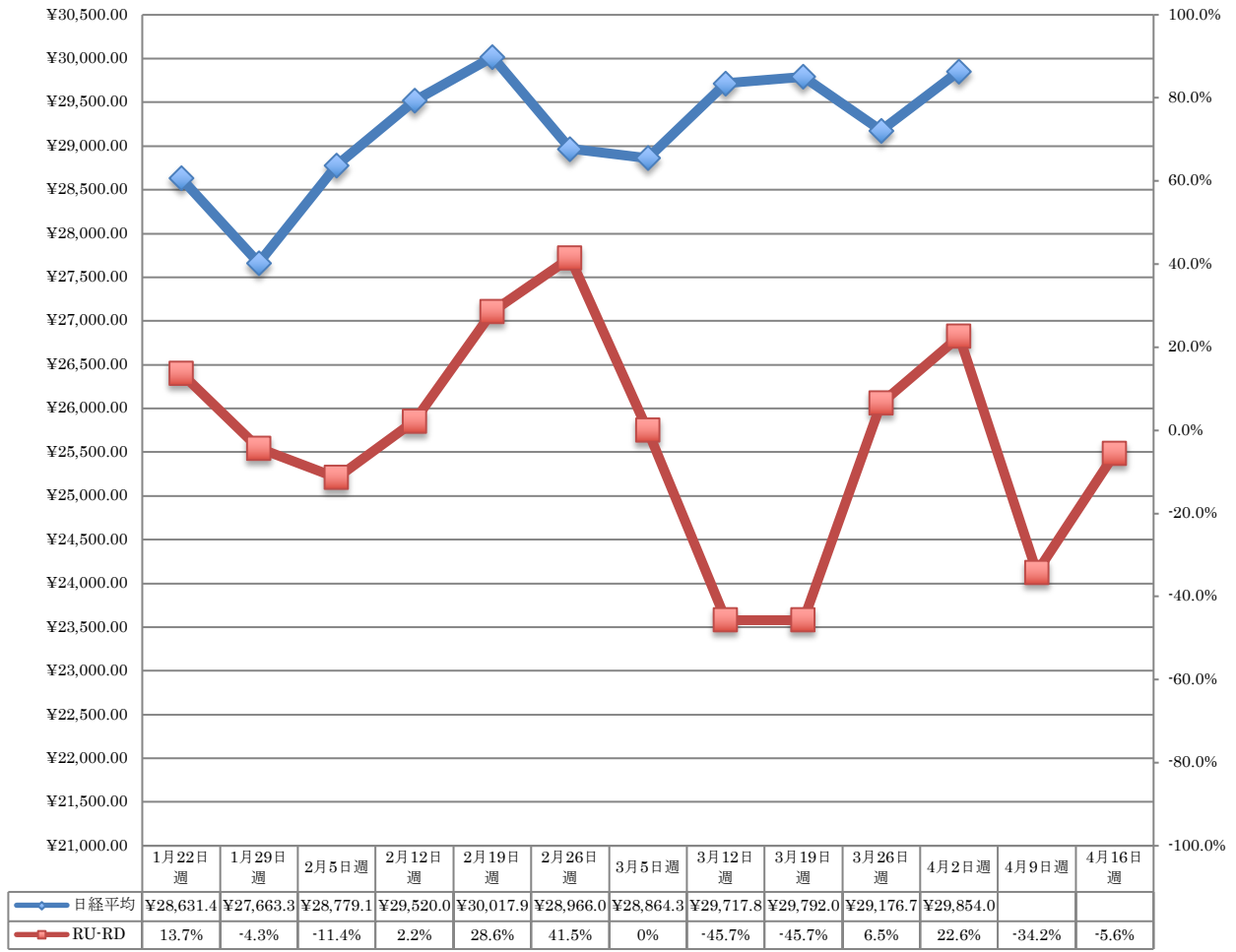
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は急落調整を警戒する週となりそうです。今週(4/5~4/9)の相場を占う『RU-RD 指標』の3月26日週が-34.2%と3週間振りにマイナス圏に陥っていることから急落調整が懸念されます。9日にミニSQを控えていることで投機筋の外国人がどのように動くのかが注目されます。また、来週(4/12~4/16)の相場を占う4月2日週が-5.6%と2週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続することが予想されます。2週連続マイナス圏に陥った3月1日週、『2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振りで希な現象。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。』と指摘したように、相場が天井圏に入っているとの投資スタンスは忘れないことです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%と34週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、6日に2月家計調査、7日に2月鉱工業生産、8日に3月景気ウォッチャー調査、一方、海外では、5日に米3月ISM非製造業指数、米2月製造業受注、6日に米FOMC議事録(3月開催分)、などが予定されています。5日発表の米3月ISM非製造業景況指数は58.2と2月実績の55.3を上回る見通しで、新型コロナウイルスの打撃からの回復傾向が顕著になるとみられています。また、7日に3月16-17日開催分のFOMC会合の議事要旨が公表されますが、上昇基調の長期金利や資産買入れの段階的縮小(テーパリング)に関しどのような意見があったのかが注目されます。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



3月26日週	4月2日週	4月9日週	4月16日週
¥29,176.70	¥29,854.00		
6.50%	22.60%	-34.20%	-5.60%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 29478 円～30067 円 (+2%かい離)

下値メモ 28496 円～27926 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 33390 ドル～34057 ドル (+2%かい離)

下値メモ 32506 ドル～31855 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 110.80 円～111.90 円 (+1%かい離)

下値メモ 109.67 円～108.57 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1785～1.1902 (+1%かい離)

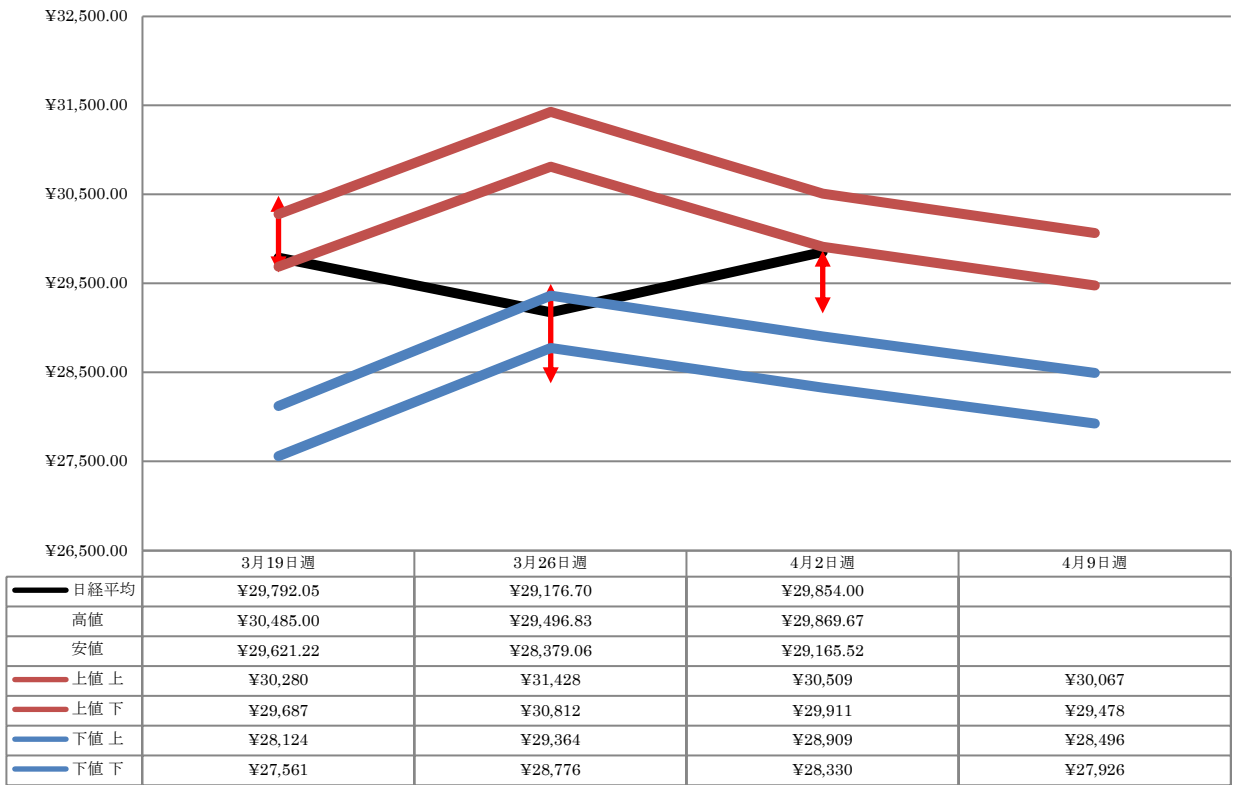
下値メモ 1.1636～1.1519 (-1%かい離)

<ユーロ円>

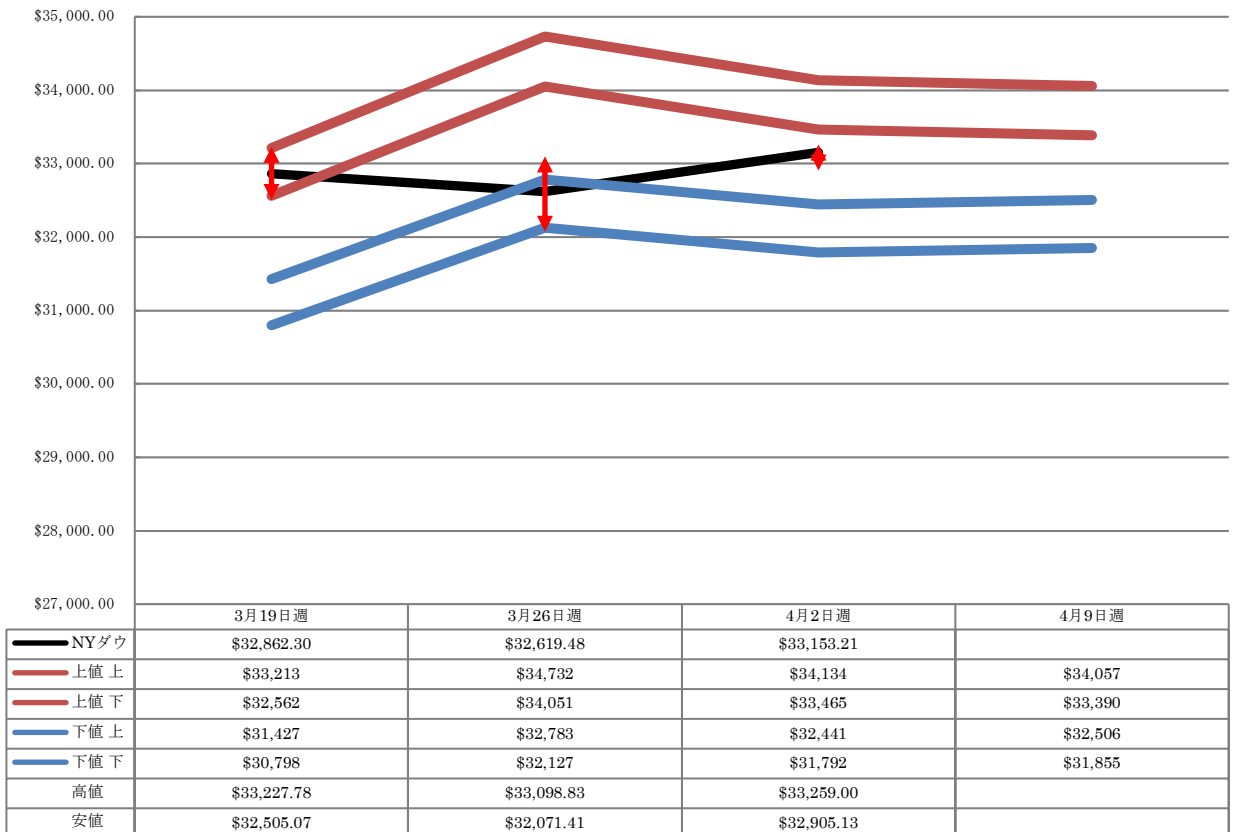
上値メモ 129.88 円～131.17 円 (+1%かい離)

下値メモ 128.36 円～127.07 円 (-1%かい離)

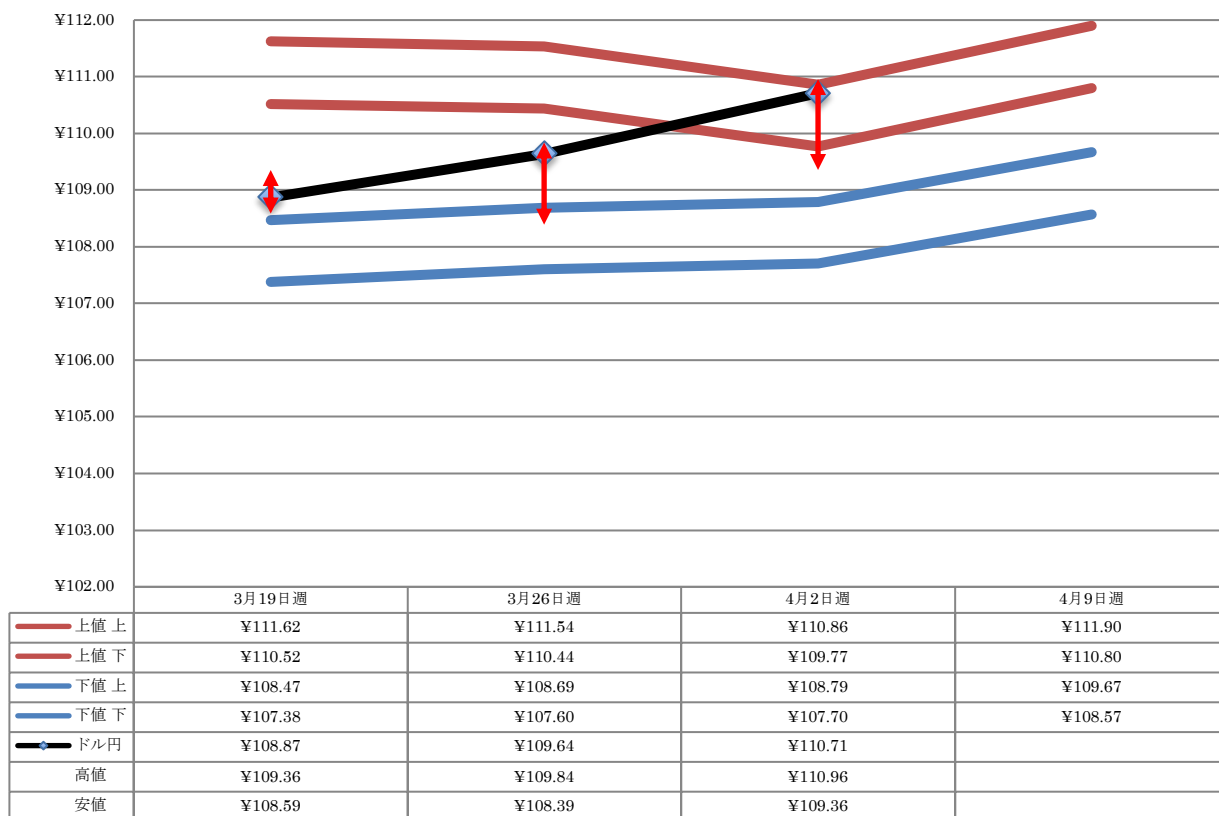
### 日経平均



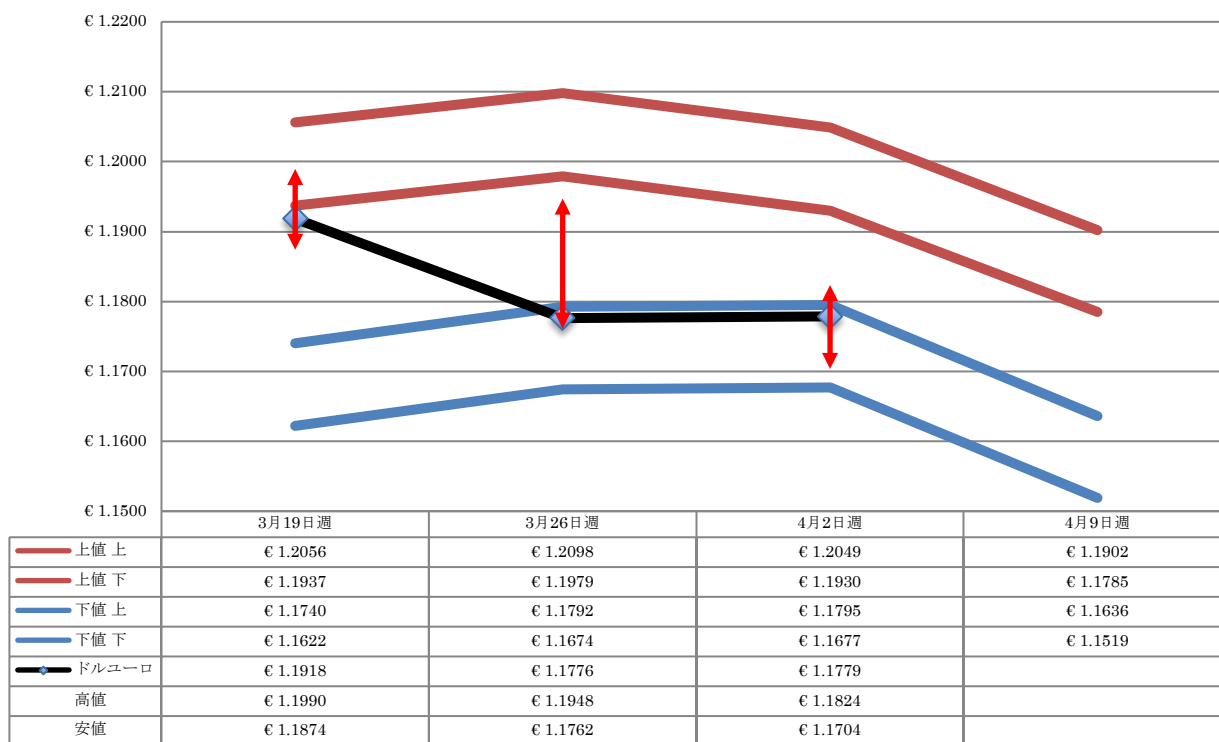
### NYダウ

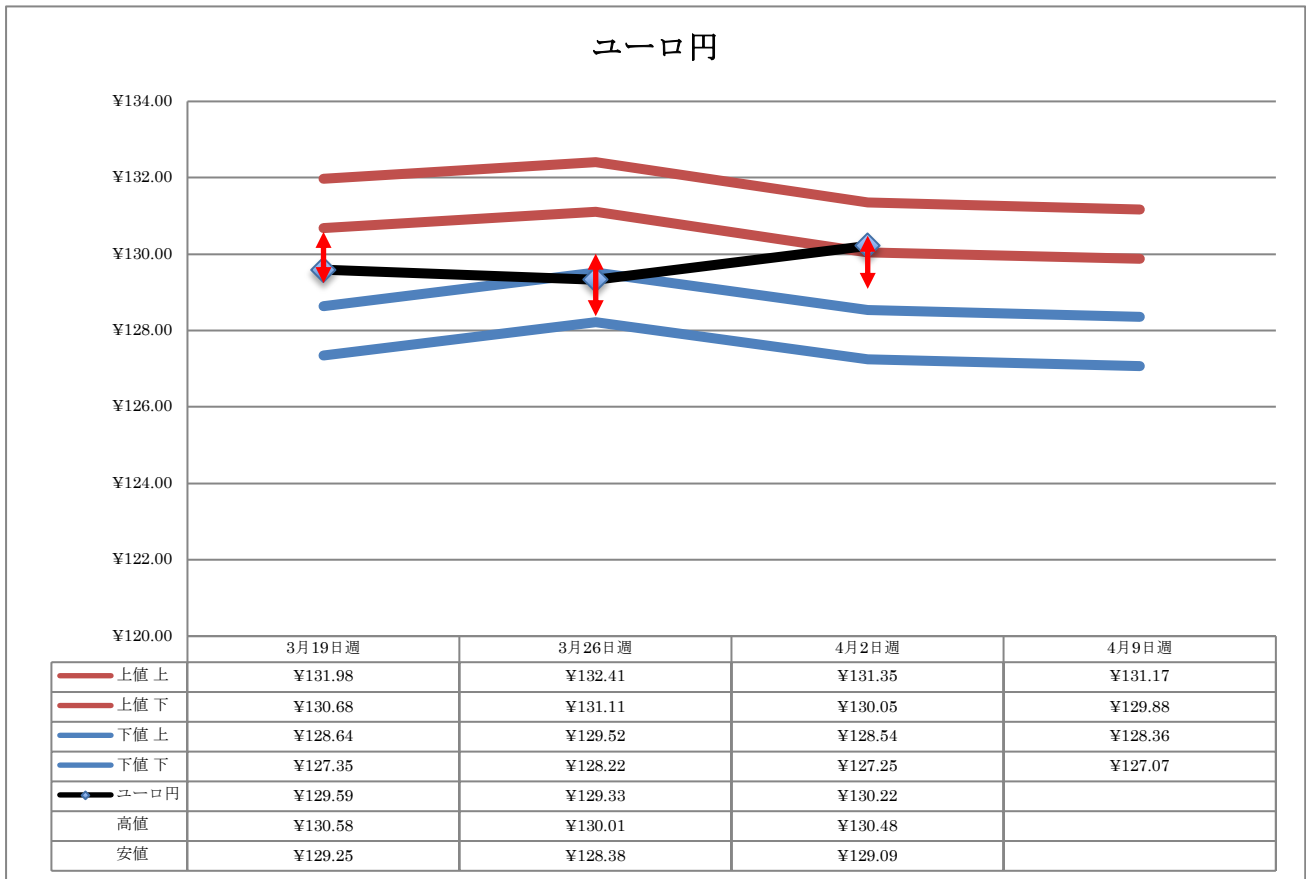


### ドル円



### ドルユーロ

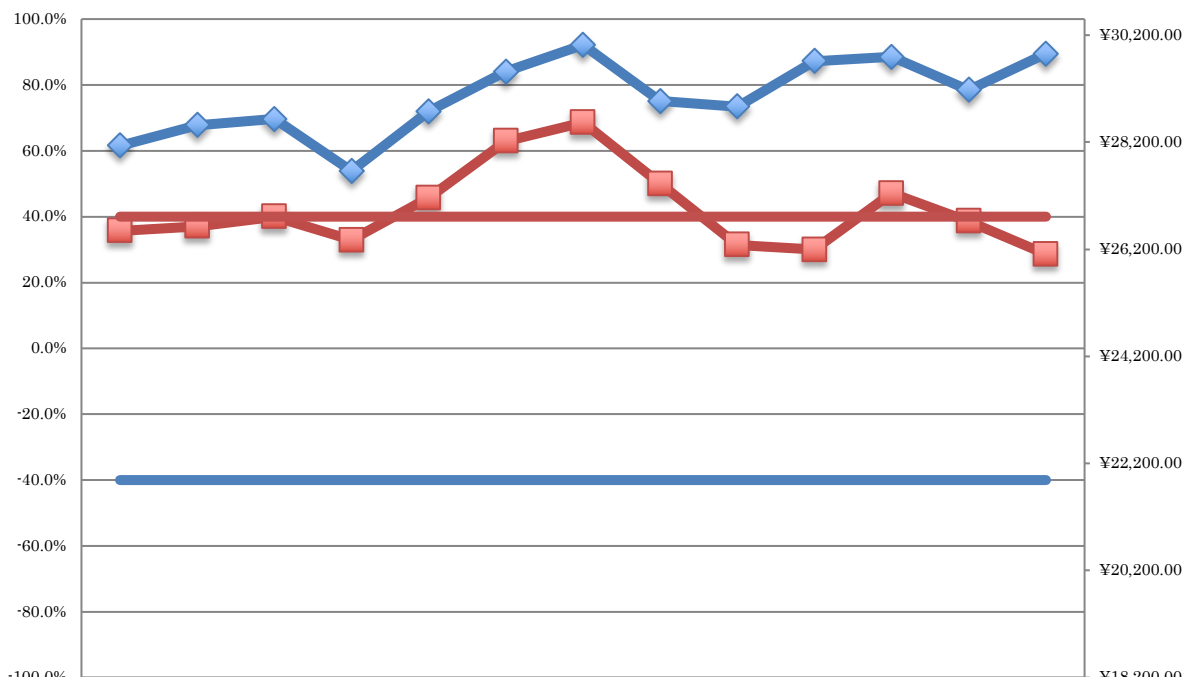




## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%→2月5日週+45.7%→2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%と34週連続プラス圏継続しています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、「上限ゾーン」を境に行ったり来たりするのは典型的な天井圏形成のパターンです。それを繰り返しながら相場は「2番天井」か、「トリプルトップ」のような天井圏形成のかたちになる可能性が強まったかたちです。

日経平均とT2レーティング比率



	1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週	2月5日週	2月12日週	2月19日週	2月26日週	3月5日週	3月12日週	3月19日週	3月26日週	4月2日週
■ 銘柄比率	35.7%	37.1%	40.0%	32.9%	45.7%	62.9%	68.6%	50.0%	31.4%	30.0%	47.1%	38.6%	28.6%
■ 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
■ 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥28,139.0	¥28,519.1	¥28,631.4	¥27,663.3	¥28,779.1	¥29,520.0	¥30,017.9	¥28,966.0	¥28,864.3	¥29,717.8	¥29,792.0	¥29,176.7	¥29,854.0

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。